



2023

7・8 月号

第399号

教区だより

真宗大谷派京都教区 教化広報誌

今月の「ことば」は教区駐在教導が担当しています

今月の「ことば」
間違いないという
思い込みが
迷いである

Shinran
500th

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

CONTENTS

2・3面

連載 第8回
真宗教団の中の
女性たち
みよし えつこ
見義 悦子氏

4面

今、この時に、
親鸞聖人に会う
近江第2組
はる た やす お
治田 保男氏

5面

特集
教区同朋会議

6面

特集
親鸞ウォーク
2023

教区仏教青年会

7面

教務所からのお知らせ
イマダカラ

8面

今月の行事予定

京都教区内の風景をお届けしています。『教区だより』では表紙写真の募集を行っております。詳しくは教務所（教区駐在教導）までお気軽にお問い合わせください。



(富山教区 正覺寺 副住職)

第八回「女性室」開設の願ひ

一九九六年七月に「女性室規程」が施行され「設置及び目的」として、

第一条 女性による宗門活動の活性化並びに宗務の執行の方針及び施策に関する企画、検討及び立案への積極的参画を実現し、もって真宗同朋会運動の推進に資するため、組織部に女性室を置く。

※『女性史に学ぶ学習資料集』p.15

と規定され、主任及び掛(宗務役員)、スタッフ(女性五名、男性三名)によりスタートした。基本理念として「男女両性で形づくる教団」と銘うった。この表現には問題があるとも指摘されているが、男性僧侶だけを構成員とし、坊守Ⅱ女性を正式な構成員としてこなか

たことに對してこの表現をせざるをえなかった。今でいえば「多様な性で形づくる教団」である。

女性室開設にあたり、能邨英士総長は、「女性室は単に真宗大谷派宗門内の枠の中にとどまるのではなく、さまざまなところで時代の苦悩を背負って生きておられる皆さんとどう手を携え、心を合わせて、人間喪失の危機を克服していくことができるのかを思いますとき、その使命は誠に重大であります。この女性室はささやかかも知れません。しかし、今はささやかであっても必ず将来に向けて、これが大きな広がりとなっていくことを深く確信しています」と述べておられる。(資料一・二三)

今月号は少し硬くなるかも知れないが女性室開設への内局の願ひの広さと深さに応えるべく十年近くの歩みを総括し将来の教団像を女性室からの視点でまとめあげた『あいあう』十七号(二〇〇五年五月号)を皆さんに目を通していただきたく、要点を紹介する。

『あいあう』十七号の中で「男女両性で形づくる教団」の基本理念を定義した。

- 性別によつて差別されたり固定的な役割を強制されたりすることがなく、男女が共に(一人ひとりの)尊厳を認めあう教団(一人の尊厳)
- 真宗門徒としての自覚のもと、同朋社会の実

現に向けて、みずからの意思と責任において個性を発揮することが確保された教団(自己選択の尊重)

- 男女が、宗門のあらゆる分野における活動に対して平等に参画し、同朋の公議公論の責任を分かち合う教団(同朋公議の責任)

※『あいあう』十七号p.13

さらに「男女両性で形づくる教団」実現のための基本目標を掲げた。

- (一人)の尊厳が認められ、一人ひとりの個性が十分に発揮され生かされる教団システムを構築する。
- 宗門のあらゆる場で性別を理由にした差別的取り扱いを一切許さない姿勢を徹底する。

- 宗門に関する諸制度・教学・儀式・慣行において、性別による固定的役割分担を反映して男女平等参画を阻害するものは、これをすべて改善し、必要に応じて積極的格差改善措置(ポジティブアクション)を実施する。

- 宗門に属する男女が、宗務所(本山)・教区・組・寺院教会における施策・方針の立案・決定に関し平等な立場で共に参画する機会を確保する。

※『あいあう』十七号p.4

また、女性室についても、教団の性差別問題に取り組むにあたり、基本的な計画を策定した。

・宗務所(本山)・教区・組・寺院教会の各組織分野で「男女平等のねがい」をもとに、現状の見直しと課題を確認する場を創る。

・機構・制度／教学・教化／儀式・声明作法など各活動分野において現状の見直しを行い、課題を確認する。

・長期的展望をもつて、実質的な成果をあげるための数値目標を設定し、総合的な行動計画をつくり、公開していく。

※『あいあう』十七号 p.4

さらには、同朋会運動と差別問題との関係と、それに取り組むことの必然性を明確に謳い、差別に対する禁止と罰則を含む規定を設けること。社会の「平等」や「人権」等の概念を持つて示される課題を真宗の言葉での確に表現すること。教学や儀式・声明作法などの点検を行い、性差別に関する課題を確認すること。教団内に差別問題について、課題提起し、差別を克服するための道筋をもうけることなどが女性室会議で議論された。

そしてその取り組みに際して、

1. 長期的総合的な視野をもった行動計画をつくり目標を設定して活動する

2. 必要に応じ積極的格差改善措置を取り入れることも考慮する

3. 男女平等参画を支えるための法的措置を検討する

※『あいあう』十七号 p.5

という方向性を示した。

ところがこれを発行した直後の二〇〇五年七月一日、女性室は事務所管を組織部から解放運動推進本部へと移管されることとなった。このことは、当時の内局が教団の機構制度の改革を目指す女性室から、教化活動に重きを置いた女性室へという方向転換を選択したことを示している。その時私は当時の組織部長に呼び止められ、直接「制度や条例に口出しするな」といわれた。

今改めて、『あいあう』十七号を通して確かめてみると女性室は開設当初の願いに立ちえているのか。もしそうでないなら、それはなぜなのか。常にこの教団に女性室が開設された意義に立ち続け発信し、動きつづけていくことの大切さに気づかされる。

女性室開設当初から、教団内の性差別に問題を感じて問い続けている女性たち男性たちから「常勤スタッフ」を置くべきとの声が上がりがつづけていた。しかしそれがかなわぬまま今日に至っている。実は「女性室規程」に関してもスタッフの知識不足で、宗務役員の作成したものをそのまま受け入れてきた。しかしこれまで「女性室

規程」によってしばらく改革できない面があることに気づいてきた。この「女性室規程」も見直しの時期にきているのではないだろうか。決して宗務役員作成が悪いということではない。これまでの歩みを通して変えるべきところは変えるということが重要ではないだろうか。

教団内にある性差別問題について、現に問題となっている事象がある。しかしその問題をどこへ言ったらいいのか。スタッフ常駐で常に開放されている女性室になっていないのではないだろうか。こうした問題点が曖昧なままになっており、女性室設置の願いが見えなくなっている気がする。

教団が糾弾を受けて差別の問題に積極的に取り組むため「本部体制」(解放運動推進本部)をとったことの再確認が必要なのではないかと思う。女性室が解放運動推進本部に位置づけられたのだから、もっと広く手を伸ばした施策が可能なのではないだろうか。是非教団にとつてなくてはならない女性室であって欲しいと念願している。同朋社会の実現のために。

※資料は『女性史に学ぶ学習資料集』(真宗大谷派解放運動推進本部女性室編)より抜粋。

※『あいあう』十七号(二〇〇五年五月発行)につきましては、公式Webサイト「あいあうnet」からご覧になれます。



今、この時に、 親鸞聖人に遇う



体解^{たいげ}

京都教区近江第二組

浄安寺 副住職

治田保男^{はるた やすお}

私はラジオが好きです。学生ときには深夜ラジオ番組を良く聞いていました。さすがに今は朝方まで起きていられないですから、時間を見つけてはスマホのアプリ等でラジオ番組を聞いています。

昨年の夏頃だったかと思います。お気に入りのお笑いコンビがやっているラジオ番組を聞いていたのですが、宇宙飛行士の野口聡一さんがゲストで出演していました。トークの時間では野口さんの学生時代や宇宙飛行士を目指すきっかけ、訓練生時代から宇宙船での活動などを話しされていました。

その中で印象的だったのが、野口さんが宇宙で体験した一番怖かった話です。サツカーグラウンド程の大きさがある宇宙ステーションの外で、橋げたの一番端で船外作業をされていたときの事です。

宇宙服には作業用のヘッドライトが付いていて前方を照らします。その上、太陽の光も直接見たら目が焼けてしまう位の光で野口さんを照らしているのに、梯子に掴まっている手の先を見ると何も見えなかったそうです。

「宇宙の“黒”があった」、「反射するものがないので、地球上で目にするあらゆる黒と違うんです。漆黒という色ですが、絶対的な闇といえいいでしょうか」、「生のない死の世界が私の体のすぐ前にある」そのような事を語られていました。

野口さんのお話から、私は黒色無双という名の世界一黒い塗料が思い浮かびました。みなさんも何かしらの黒を思い浮かべたのではないのでしょうか。でもそれらは全て野口さんの見た、黒、とは違うわけです。野口さんの話を聞いてなんだか私はわくわくしました。

五感でしかわからない事は確かにあって、それを人に伝える時には相手に伝えきれない物もあるでしょうし、それに近い表現で伝える

事にもなると思います。

『歎異抄』の「おのおの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御ころざし(第二章)」という部分が野口さんのラジオを聞いてから気になるようになりました。

かつて遠方よりはるばる親鸞聖人を訪ねて来られた方がたくさんおられたことと思います。今まではただ大変だっただろうなあとしか思いませんでした。実際にはもっと文章に表れていない、不安や苦勞があったことと思います。

同じように親鸞聖人と蓮如上人も真宗の教えを伝えるためにさまざまな所へ足を運ばれましたが、当の二人にはお会いできませんし、お話をお聞きする事もできません。

ですが、お二人が見て来られた景色や道がまだあるのではないのでしょうか。そこで見られた景色や聞こえてくる風の音、運ばれてくる潮の風に何を感じられたのでしょうか。きっとそこには言葉にならない様々な感情があったことでしょう。いつかそれを私自身が訪ね、感じられたらと思っています。

特集 教区同朋会議

五月十八日に開催された二〇二二年度の教区同朋会議の様子をレポートします。

出版部会副主査 蒲池義圭

二〇二三年五月十八日（木）、しんらん交流館大谷ホールにおいて二〇二二年度教区同朋会議が開催された。教区同朋会議は教区の教化について包括的に、かつ諸問題について深く協議を行い、教区教化の方向性を議論する会議として毎年テーマを設定して開催されてきた。

そのため会議の参加者の顔触れはその年年で異なる。今年度は教区改編を見据え、今後の教区教化の方向性を大きく左右する長浜・京都両教区による調整協議会の議論が継続中の段階であることも踏まえ、包括的に教区教化の課題を検討するのではなく、「真宗の仏事の回復」ということを主眼に置いて開催されることとなった。今年度の参加者の顔触れは教区教化委員・教化推進本部員・組教化委員長・教区門徒会常任委員となり、合計七十一名で「深く経蔵に」を体現する時間となったように思う。

近年の諸課題の一つに、『仏説観無量寿経（以



下『観経』』における「是旃陀羅」の問題が挙げられる。二〇一三年に部落解放同盟広島県連合会（以下、広島県連）より再度「是旃陀羅」問題への指摘を受け表面化したこの課題は、聖教の一つ『観経』に「是旃陀羅」という差別表現が見られること、これまでも幾度となく指摘が繰り返され、その都度解決への道筋を探ってはいたものの、二〇一三年に再度指摘を受けるまで放置していたと広島県連に受け止められてきたことにも関係する。「是旃陀羅」の問題についてはここ数年、教区でもこれまで様々な研修会等で、幾度となく学ぶ機会を設けられてきたが、宗派の指針を待つ意味合いも含め、煮詰まってこなかった様にも感じていた。その一方、『観経』に対する受け止めが揺らぎ、混乱していった時期ではなかっただろうか。

そこで今回の同朋会議では、宮下晴輝教学研究所長を講師に招き、「是旃陀羅」問題について宗派としての指針を聞き、学びの方向性を整理することで、『観経』の持つ大事な聖教としての理解と、「是旃陀羅」という語に対しての向き合い方を学ぶこととした。

宮下所長は、二〇一六年に出された「部

落問題等に関する教学委員会報告書（提言・調査研修報告）」やこの度宗派から刊行された学習冊子『是旃陀羅問題について』を元に、これまでの宗派の歴史の中においての「是旃陀羅」についての受け取りや、『現代の聖典 学習の手引き』における記述の誤り、また広島県連と話し合いを持った当時の小森龍邦氏や岡田英治氏とのやり取りも含め順を追って話してくださった。改めて、この問題の根深さや、自分自身の受け取りの浅はかさを思い知る時間となった。

宗派としては今後刊行予定の是旃陀羅問題学習テキスト『御同朋を生きる』、この度刊行された学習冊子『是旃陀羅問題について』を元に、全国の僧侶門徒の学習を始めていくことになっている。指摘への応答はこれからの学習にかかっているようだと感じた。最後にこの学習冊子『是旃陀羅問題について』の括弧の文章を引用して終わりたいと思う。

一人ひとりが『観無量寿経』そのものを正しく受けとめていくためにも、私たち自身もまた、このような親鸞聖人の心を仰いで、親鸞聖人が立たれた地平に還らなければなりません。そのことを願って、学習テキスト『御同朋を生きる』を通して、学びを深めていきたいと考えています。

ここに、真宗門徒として生きるすべての宗門人による「是旃陀羅」問題の学習を、ただちに開始してまいりましょう。

特集 親鸞ウォーク2023 レポート

親鸞ウォークの当日はあいにくの雨となったようですが、待ちわびていた参加者には大きな問題とはならなかったようです。開催にかけた想いと当日の様子を、葛藤も含めて主催の教区仏教青年会の会長に語ってもらいます。

教区仏教青年会会長 仁科 洸

去る五月十九日（金）親鸞ウォーク2023が開催された。今年は新型コロナの状況も落ち着き、定員を以前のように五十名として募ることができた。

開催日前日の天気予報では、雨の予報であったが、「雨天決行」と案内をしていたが、本当に雨の中やるのかという雰囲気スタッフが間で漂っていた。キャンセルが相次いで参加者が少ないようであれば中止にしてもいいのではないかと、正直私は思っていた。

しかし、迎えた本番は予想を超えて三十名の参加者が集まった。中には、新潟や金沢などの遠方から来られた方や、この日の為にトレーニングを重ねてきた方もおられ、親鸞ウォークを心待ちにしていた方が多くおられたことに驚いた。

親鸞ウォーク2023の舞台は滋賀県近江八幡市。一二〇七年の承元の法難によって死罪となった住蓮房、安楽房のゆかりの地を巡るコースとなっていた。

午前九時、JR近江八幡駅を出発した。最



初に立ち寄ったのは、住蓮房首洗い池。住蓮房は近江馬渚で打首に処されたとされ、その御首を洗ったという言い伝えが、首洗いと呼ばれる所以である。スタッフの寺谷氏の説明を聞きながら、各々がその当時の背景に想いを巡らしていた。

次に訪れたのが、圓願寺（近江第七組）。こちらには住蓮房・安楽房のもとと伝えられる頭骨や、住蓮房の母公（朝子）を加えた三体の座像が安置されている。

圓願寺に着くと、寺族、門徒の方が総出で出迎えてくださった。縁側の扉には大きく「SHINRAN WALK」と飾り付けられ、随所に歓迎の花が生けられていた。さらには温かいコーヒーとお菓子の準備をして下さっていて、雨に濡れ、体温が低下していた我々にはひと時のオアシスであった。

圓願寺で昼食をとり、ご門徒の方々の手厚いお見送りを背に次の「僧塚」にたどり着いた。僧塚には住蓮房、安楽房の遺骨が埋葬された

に、時の寺僧道観が聖人に帰依し、浄土真宗に改宗されたと言われている。気を使わなくていいようにと、本堂にはブルーシートが敷かれていて、濡れた足で遠慮なく上がらせていただくことができた。ご住職の話に笑い声もあり、参加者は疲労だけではなく、明るい表情も浮かべていた。

スタート早々から横殴りの雨に打たれて足元が濡れてしまい、このまま続けるのか？と何度もボヤいてしまったが、最後まで誰一人怪我もなく無事に近江八幡駅に到着することができた。ひと時も雨が止むことはなく、かなりの負担がかかる中での開催となったが、これはこれで出迎えてくださる人たちの温かい心に触れることができ、印象的な一日となった。

今回、承元の法難の象徴的な存在である住蓮房・安楽房のゆかりの地を巡り、念仏することが困難だった時代を経て、念仏の声が今日の私まで届いているその背景に、改めて出あい直す機会をいただいた。

と伝えられている。のどかな田園地帯にひっそりと佇んでいた。

最後に向かった場所が本願寺派の寺院である廣濟寺である。元は天台宗の寺院であったが、親鸞聖人が関東から帰洛の途中に立ち寄られた際

教務所からのお知らせ

【住職任命者】

二〇二三年五月二十八日付

・山城第三組 善福寺 井上誓

・近江第十一組 善敬寺 大照卓

・近江第二十六組

浄榮寺 武田 英昭

【敬弔】

ご生前のご功勞を偲び、謹んで
哀悼の意を表します。

・山城第二組 正念寺

前住職 伊知地 巍照 八十八歳

二〇二三年 五月 一日

・山城第五組 徳念寺

前住職 回陽 博史 八十五歳

二〇二二年 九月 七日

・因伯組 西念寺

前住職 瀧 信雄 九十歳

二〇二三年 四月 二十九日

〔寺院教会番号順敬称略〕

【教務所電話応対時間について】

7 月より教務所の電話応対時間
が、閉所時間と同じ 16 時 30 分まで
となります。ご承知おきください。

【教務所夏期休暇のお知らせ】

8 月 10 日(木)～17 日(木)を夏期

休暇といたします。緊急(期間中
の授与物のお渡しや院号法名の申
請、収骨の受付等は含みません)

の場合は、緊急連絡先までご連絡
いただきますよう、お願いいたし
ます。

〔緊急連絡先(教務所携帯電話)〕

090-3719-7982

【教務所事務休止のお知らせ】

8 月 21 日(月)は、教区会館の大
掃除のため所員は出勤しておりま
すが、事務休止といたします。ご
承知おきください。

【本山出版物取り扱い変更のお知らせ】

7 月より、教務所での本山出版
物の取り扱いが変更となり、赤
本、表白、新刊書のみ取り扱い
となります。年間書についても取
り扱いませんので、ご注意ください
。今後は本山出版部で直接お求
めになるか、東本願寺出版ホーム
ページをご利用ください。

<https://higashionganji-shuppan.jp>



最近、教区同朋会議・湖西地区人権

学習会と、宮下晴輝教学研究所長の

お話を聞く機会が続いた。いずれも内

容は是旃陀羅の語についてであり、こ

のたび発行された学習冊子『是旃陀

羅問題について』の内容をご紹介介

いただいた。実際に手に取ってみ

て、自らの現場で、冊子をもとに

した学び、具体的には輪読・座談

の場をひらきたいと思った。

是旃陀羅の問題は、基本的に、

住職・寺族が率先して学んでい

くべきものだと考えてきた。だが、

教区改編に向けての教化推進本

部調整協議会で、長浜教区のご

門徒の委員から、「部落差別問題

の学習に誘われたことが、組や教区、

そしてお寺に関わるきっかけとなっ

た」という趣旨の言葉を聞いて、とも

に学ぶ仲間をわざわざ限定する必要

はないと気づかされた。

イマダカラ

自坊では、新型コロナ感染拡大の頃
から、同朋の会がとまっている。コロナ
の影響というのは口実で、本当のここ
ろは、住職である私が疲弊してとまっ
てしまったのだ。そこでの私は、座談の
際、参加者に発言してもらおう
と腐心するばかりで、ともに学ぶ
姿勢を決定的に欠いていた。お聖
教に、ともどもに自身をたずねて
いくことを忘れ、同朋の会として
の形が整うこと、会がうまく回る
ことばかりに気を取られていた
私の姿勢が行き詰ったということ
なのだろう。

今回の学習冊子発行を機縁と
して、学びをともにする中に、お
互いを聞きあう場を賜る。もとより簡
単ではないが、ポストコロナの第一歩
として取り組みたいと思う。

(出版部会 主査 比叡谷 真)

編集後記

The editor's note

風邪気味の際や参詣が続く時に喉を
ケアする為、飴を持ち歩くようになった。
それがきっかけで最近「のど飴」を中
心に多様な飴を買って集めて楽しんで
いる。今、飴は健康や塩分補給を目的とし
た物など種類も豊富である。お洒落な

容器に入れて飾ったり、口寂しい時に何
個も口にするようになった。もはや私に
とって「のど飴」は喉のケアというより趣
味とお菓子の代わりになりつつある。1
日の砂糖摂取量を考えるべきかもしれ
ない。

(出版部会 徳田 潤子)

京都教区 7 月の行事予定

教区諸会議

6日(木)	13:30～16:30	教化推進本部 調整協議会	長浜教務所
11日(火)	13:00～16:00	部落差別問題に関する改編協議会	長浜教務所
12日(水)	13:30～17:00	参事会 常任委員会	教区会館2階 大講堂
13日(月)	13:30～16:30	教化推進本部 出版部会 (Zoom 会議)	Zoom
14日(金)	15:00～17:30	教化推進本部 常任本部会	教区会館2階 大講堂
19日(水)	11:00～15:00	教化推進本部 青少幼年教化部会	教区会館3階 会議室
21日(金)	10:30～16:00	教区会	しんらん交流館
25日(火)	10:30～16:00	教区門徒会	教区会館2階 大講堂

教区別院事業

7日(金)	6:30～8:00	大津 暁天講座 法喜 藤場芳子 師 (金沢 常講寺)	大津別院
8日(土)	6:30～8:00	大津 暁天講座 法喜 名和達宣 師 (教学研究所有員)	大津別院
10日(月)	13:30～15:30	山科 同朋の会 法喜 赤松崇磨 師 (教区駐在教導)	山科別院
15日(土)	6:30～8:00	伏見 暁天講座 法喜 酒井正夫 師 (三重 道淨寺)	伏見別院
16日(日)	6:30～8:00	伏見 暁天講座 法喜 宮部渡 師 (大塚 西稱寺)	伏見別院
28日(金)	6:30～8:00	山科 暁天講座 法喜 狐野秀存 師 (前大谷専修学院長)	山科別院
29日(土)	6:30～8:00	山科 暁天講座 法喜 荒山淳 師 (名古屋教区教化センター主幹)	山科別院
30日(日)	6:30～8:00	山科 暁天講座 法喜 海法龍 師 (東京 長願寺)	山科別院

京都教区 8 月の行事予定

教区諸会議

1日(火)	13:30～16:30	組長会	しんらん交流館
22日(火)	14:00～17:00	教化推進本部 両教区各部門部会懇談会 育成研修部会	滋賀県立男女共同参画センター G-NET しが 滋賀県近江八幡市鷹飼町 80-4
31日(木)	13:30～17:00	教化推進本部 調整協議会	教区会館2階 大講堂

教区別院事業

6日(日)	7:00～8:30	赤野井 暁天講座 法喜 伊藤益 師 (哲学者 筑波大学名誉教授)	赤野井別院
7日(月)	7:00～8:30	赤野井 暁天講座 法喜 御手洗隆明 師 (教学研究所有員)	赤野井別院

教務所夏期休暇のお知らせ

8月10日(木)～17日(木) ※詳しくは7ページ「教務所からのお知らせ」をご覧ください。

教務所事務休止のお知らせ

8月21日(月) は、教区会館の大掃除のため事務休止といたします。ご承知おきください。

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌
『教区だより』第399号
[発行人] 篠岡誓法(真宗大谷派京都教務所長)
[発行所] 真宗大谷派京都教務所
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入
Tel:075(351)5260 Fax:075(351)5256

【表紙の写真】 fly High (近江第11組 普賢寺 蒲池義圭)
発行日 2023 (令和5) 年 7 月 1 日
メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト
https://www.k-kyoku.net

京都教務所

検索

